

第 134 回北信越地区高等学校野球大会報告書 (平成 28 年度春季)

新潟県高等学校野球連盟審判部

北支部 能村 友紀

南支部 小柳 秀之

期 日：平成 28 年 6 月 4 日 (金) ～ 6 月 7 日 (火) [雨天順延]

場 所：福井県営球場、福井フェニックススタジアム

主 催：北信越地区高等学校野球連盟

主 管：福井県高等学校野球連盟

後 援：福井県教育委員会・福井市教育委員会・福井新聞社

◀ 審判委員打合せ ▶

平成 28 年 6 月 3 日 (金) 午後 4 時～ 福井フェニックスホテル

開会挨拶	福井県高等学校野球連盟	会長	福岡 慎二 氏
	福井県野球連盟審判部	部長	向村 英博 氏

派遣紹介	長野県派遣委員	花井 弘樹さん、	半田 悟さん
	富山県派遣委員	林 敦さん、	坂林 一史さん
	石川県派遣委員	浜名 冬樹さん、	千滝 治利さん
	新潟県派遣委員	能村 友紀、	小柳 秀之

【 重点事項 】 審判部長 向村 英博 氏

- ◇ 高校生に対し、ルールとマナーを教え、遵守させる。⇒「**野球の品格**」
- ◇ 的確 (間違いのない)、責任のある判定と毅然たる態度であること。
- ◇ 際どいプレイには、大きな発声と、シャープな力強い、大きく決めるゼスチャーを！

【 大会審判上の取り決め事項の確認 】 技術部長 木橋 正喜 氏

平成 28 年「周知徹底事項」「重要指導事項 (礼に始まり礼に終わる)」等、通達資料確認。

[審判クルーの取り決め]

- ◇ 審判フォーメーションは、平成 27 年度版「高校野球の手引き」通りとする。
- ◇ 試合前のミーティングを十分に行う。

- ◇ 「行動サイン」と「アンサーサイン」→コミュニケーションを積極的に。
(サインは球審から発信して、二塁塁審⇒一・三塁塁審の順 各々勝手に出さない)
- ◇ 野手の一人タイム要求時は、タイムをかける。
- ◇ 単独三塁以外で走者がいる時は、二塁塁審は中に入る。

[用具点検について]

- ◇ 攻守決定 (トス) 時テーピング・サングラス・マウスピースの確認
- ◇ ベンチ前点検バット・ヘルメット・捕手用具
- ◇ 保護サポーター、レッグ・エルボーガードのチェックは行わないが、色は白か黒かの確認はする。
- ◇ グラブの締めをしっかりと結ぶように指導する。
- ◇ 第一試合目はトスの10～20分前、第二試合目以降は次の試合のクルーが選手の出し入れをし、直ちに用具点検を行う。
- ◇ シートノック時に用具点検は行わない。(チームのシートノック優先!)

[トラブル時の対処等について]

- ◇ ベンチからの抗議、問い合わせの伝令に対しては、その選手に正対して説明する。(監督をグラウンドに出さない事) また、説明を受け取った監督の「了解しました」の合図を待ってプレイを再開する。
- ◇ 4 審で協議後、当該審判委員が審判控え室に行き、控えに再開の仕方を含め報告・確認する。
- ◇ 放送は原則当該審判ですが、場合によっては責任審判が放送する。
- ◇ 抗議がなく、何でもないので4 審を寄せて協議しない事。

[その他]

- ◇ 選手交代時はそのアナウンス終了までプレイをかけない。
- ◇ 5 回終了時、グラウンドを引き上げる祭は、アピールの有無を確認する。また、試合球、ロジンの確認もする。
- ◇ 試合終了後ロジンは回収して整列しない事。
- ◇ トス時、補助員を集めての説明は無い。

【 審判割振り 】

審判部長 向村 英博 氏

- ◇ 一回戦4 試合、二回戦4 試合の割振り発表。
同県派遣委員2名と福井県審判委員2名の4人でクルーを組み、派遣委員は球審と一塁塁審を担当。
- ◇ 準決勝・決勝の割振りは、試合前日に発表(試合勝ちあがりに配慮)

閉会挨拶

福井県野球連盟審判部

副部長 高木 伊佐男 氏

《 担当試合所感 》

6月4日（土）一回戦 球場：フェニックス

第一試合「松商学園（長野2位） vs 高岡商業（富山2位）」

球審：小柳、一塁：能村、二塁：宇賀さん（福井）、三塁：石津さん（福井）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
高岡商業	0	0	1	1	0	0	0	0	4	6
松商学園	0	0	0	1	0	0	0	4	0	5

〔小柳〕

開会式会場の第一試合という事で始球式も行い、普段とは違う緊張感で試合が始まりました。終盤は逆転に次ぐ逆転で、球審をされていて息詰まる思いでした。フォーメーションの乱れも無く、試合の終了を迎えることが出来ました。

〔能村〕

初めて組むクルーでしたが、4審のアイコンタクトも出来ていてスムーズに試合を行うことが出来ました。

6月5日（日）二回戦 球場：県営

第二試合「美方（福井3位） vs 富山第一（富山1位）」

球審：能村、一塁：小柳、二塁：細井さん（福井）、三塁：宇賀さん（福井）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
富山第一	0	0	1	2	0	0	1	0	0	4
美 方	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3

〔能村〕

両チーム合わせて21安打の試合でしたが、試合進行は比較的に良かったと思います。投球判定は落ち着いてできたと思います。

〔小柳〕

一塁でのフォースのジャッジは、落ち着いて出来たと思います。飛球に関しても、アイコンタクトをとりながら、追う追わないの判断が出来ました。反省点として、リミングの場面での一歩目が遅くなり、今後の課題となりました。

6月6日(月)準決勝 球場：県営

第二試合「星陵(石川1位) vs 富山第一」

球審：小柳、一塁：能村、二塁：田中さん(福井)、三塁：石津さん(福井)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
富山第一	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
星陵	0	1	1	0	1	2	0	0	X	5

〔小柳〕

先発の両投手ともに球速があり、いつも以上にトラッキングを意識しました。富一の投手が指に息を吹きかけたので、注意指導を行いました。三塁タッグアップ後、アピールのある場面でタイムをかけてしまい、選手はアピールが行えず、プレイ再開後アピールを行いました。(状況の確認不足を反省。)

〔能村〕

星陵高校に2回と5回に本塁打がありました。5回の本塁打はライトポール際の打球でしたが止まって見ることができました。フォーメーションの乱れもなく試合を終了することができました。

6月7日(火)決勝 球場：県営

「高岡商業 vs 星陵」

球審：能村、一塁：半田さん(長野)、二塁：小柳、三塁：花井さん(長野)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
高岡商業	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4
星陵	3	5	0	0	2	0	2	0	X	12

〔能村〕

両チームとも投手陣が安定せず、2回終了時点で1時間近くになる試合展開となりました。3回以降はボール回しを無くして対応をしました。高商の打者がインコースの投球を避けずに左肘に当たったのでボールの判定をして一塁に行きかけた打者を呼び戻しましたが、記録や観客にもう少しわかりやすい伝え方とカウント確認を行う必要がありました。打順変更のある選手交代を伝える際に少し時間がかかってしまったので反省事項となりました。

〔小柳〕

二塁での併殺、ピポットマンが捕球後、持ち手に移す際に落球、アウトのジャッジが弱いと指導を受けました。高商の投手が、球をズボンで拭いたので交換し、注意指導を行いました。

《 大会を終えて 》

大会四日間は天候にも恵まれ、順調に試合を消化する事が出来ました。幸運にも私たち両名は、一回戦から決勝までの4試合を担当する事ができ、貴重な経験をさせていただきました。この経験を生かし、謙虚な気持ちを忘れずに、審判に取り組んで行きたいと思えます。

大会期間中は大きなトラブルも起きませんでした。担当以外の試合で「反則投球」の説明でマイクを持つ事例がありました。カウント2B1S、反則投球を打者が打ちファウルボールになり、3B1Sで再開しようとした所でベンチから確認が入り、マイク放送となりました。

他県の審判委員との意見交換などは大変参考になり、皆さん県代表の審判委員ですので、少しでも技術や知識を吸収して帰ろうというモチベーションも高く、夜遅くまで意見交換や審判談義を繰り広げました。

その中で、トスの進め方、用具点検のタイミング、給水の方法、球場入りの服装、等々それぞれの県で多少の違いがある事も分かり勉強になりました。また、同一の意見として審判委員の発掘については、どこの県でも大変のようで頭を悩ませていました。

最後になりましたが、大会期間中お世話になりました福井県野球連盟審判部の皆様、派遣の機会を与えてくださいました新潟県高等学校野球連盟ならびに審判部の皆様に感謝申し上げます。

以上